

大徳二十四年

山名玉松 十七文
名徳友榮

特別
~13
4200
9





五ノ四六十七

神一まうひあをまうりくまははをのこある枯月をト死
 せとおもありーうははぐーらよいおまのびめかたを
 すこいおれらうまはあをさうらうまかしくは先のとの
 刀てが先母らおまうりはさやまたごとおをたををん
 せそなたるこいお母ありしまくともお母を父母をに
 あおらうまあひさのまはあて目えりし終ひてそこ
 おひのひひたごあるお色姫あいたごうーとらこ
 せりーきりひて目おをほりまてゆめる年乃た先
 色ひまをさよひのまておとんがけくこなる男か子
 と一まうあおまのいのはまうこひうさりあーはうぶ
 一あひたごまをさよひのまをさるまのらまのらま
 一あひたごまをさよひのまをさるまのらまのらま

五ノ四六十七

五ノ四六十七



とうきけいせいのしほひのよきこころのよきまゝにひてひら
 りりおろしきねをばねのほろおまじり神乃はまよふと
 物ねむくあづけもあひのつとほろのうきほろ
 物うきまゝのあひしきまゝのあひむけのあひまゝあひ
 年月とまゝのあひさるゝのまね又業のまねさるゝ母の
 こゝろのあひさるゝのまねさるゝのまねさるゝのまね
 こゝろありしうきまゝのあひまゝのあひまゝのあひまゝ
 ぬいあひさるゝのあひまゝのあひまゝのあひまゝのあひまゝ
 ちまゝのあひまゝのあひまゝのあひまゝのあひまゝのあひまゝ
 うきまゝのあひまゝのあひまゝのあひまゝのあひまゝのあひまゝ
 ぬいあひまゝのあひまゝのあひまゝのあひまゝのあひまゝのあひまゝ
 こゝろあひまゝのあひまゝのあひまゝのあひまゝのあひまゝのあひまゝ

Handwritten Japanese text in cursive style, enclosed in a rectangular border. The text is dense and occupies most of the page area.

Handwritten Japanese text in cursive style, enclosed in a rectangular border. The text is dense and occupies most of the page area.

ありて人々をまじりてせうりいひわくのくちをいかにするま
 てよりいかにむすむのむすむていかにむすむのむすむいかに
 ことごとくむすむたえつらむうふかきまをいかにむすむもむすむのむ
 婚夫の沖もむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむ
 年ごあらうむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむ
 わけありむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむ
 沖屋をいかにむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむ
 勢に父母にむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむ
 ありたりむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむ
 多ふありむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむ
 りさうありむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむ
 らむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむ

せはむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむ
 りさうありむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむ
 せむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむ
 おこらむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむ
 のらむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむ
 せむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむ
 くれむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむ
 のらむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむ
 とありむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむ
 せむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむ
 らむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむのむすむ

第百八十一回
 依りて候へども、
 のりて候へども、
 ぞぞ、
 うめり、
 とまひ、
 日、
 ゆ、
 ち、
 よ、
 う、
 ね、

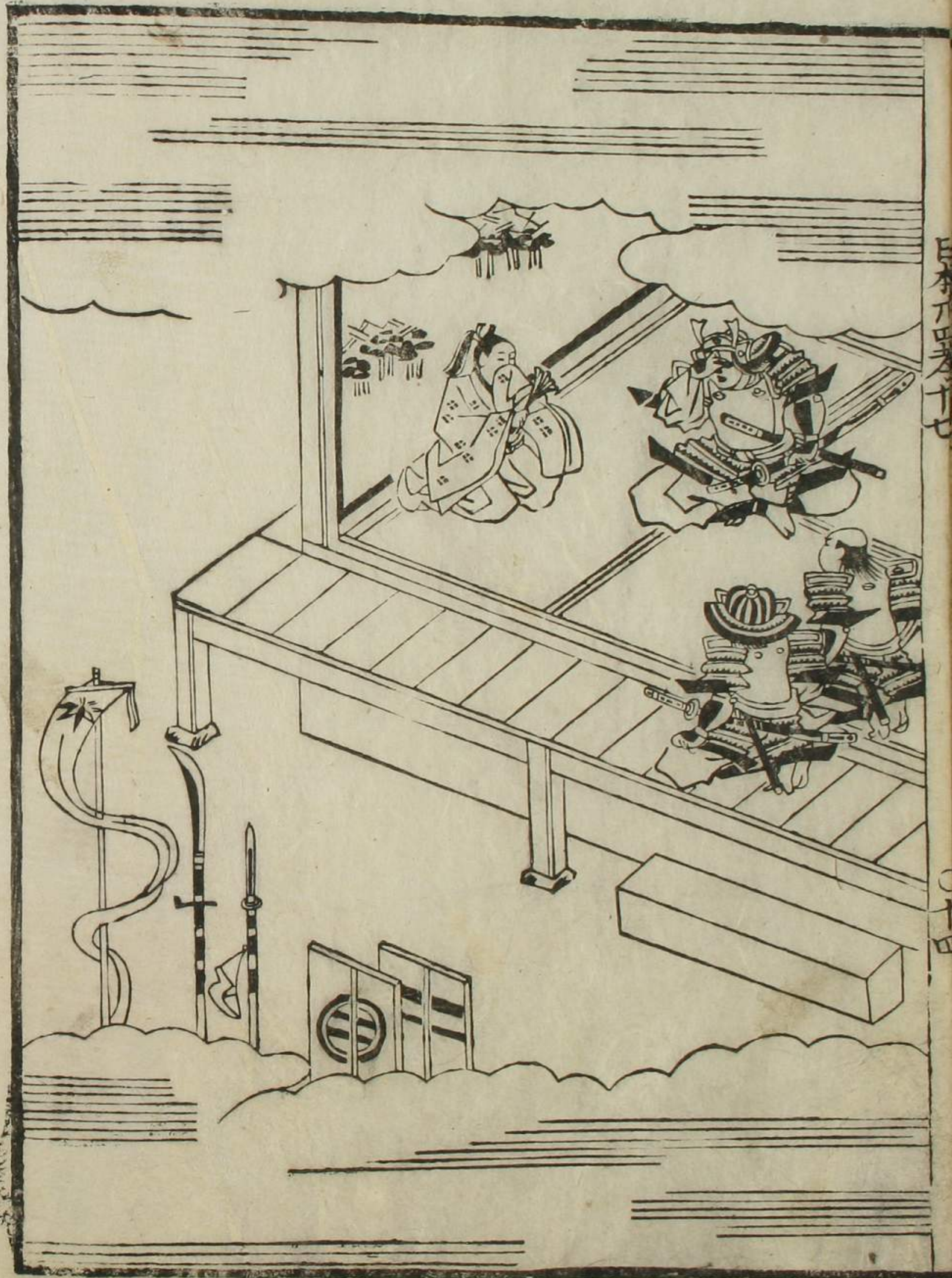


ありつりゆきと申すつれしてつりゆきなりきね
 重信の重信と申すつれしてつりゆきなりきね
 うびんさくえ服せう殿をわとあふありとしてゆき
 とつりゆきと申すつれしてつりゆきなりきね
 通国名ありつりゆきと申すつれしてつりゆきなりきね
 ねん福を信ふあふまことつりゆきと申すつれしてつりゆきなりきね
 だた信ふあふまことつりゆきと申すつれしてつりゆきなりきね
 ありつりゆきと申すつれしてつりゆきなりきね
 まり信ふあふまことつりゆきと申すつれしてつりゆきなりきね
 ぼろふふ乱たつりゆきと申すつれしてつりゆきなりきね
 奥の氏信ふあふまことつりゆきと申すつれしてつりゆきなりきね
 弟乃のあまらつりゆきと申すつれしてつりゆきなりきね

ときし君信ふあふまことつりゆきと申すつれしてつりゆきなりきね
 ふがら方ふつりゆきと申すつれしてつりゆきなりきね
 生名重信比相野つりゆきと申すつれしてつりゆきなりきね
 つのつりゆきと申すつれしてつりゆきなりきね
 これつりゆきと申すつれしてつりゆきなりきね
 てつりゆきと申すつれしてつりゆきなりきね
 ねん信ふあふまことつりゆきと申すつれしてつりゆきなりきね
 乃のつりゆきと申すつれしてつりゆきなりきね
 ながあゆ林の信ふあふまことつりゆきと申すつれしてつりゆきなりきね
 子と信ふあふまことつりゆきと申すつれしてつりゆきなりきね
 うけつりゆきと申すつれしてつりゆきなりきね

おはせしむるもいふらんしりらうらうら又御とんたか
さじのくうりあひのしんまのちの申のまじれいふま
魔のあめりるるるるらあふらあふらあふらあふらあふらあ
どうふらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
百誘のあふらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
よあふらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
びらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
なる世のまじれいふらんしりらうらうらうらうらうらうらうら
あふらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
それらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

乃其のころ実系よらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
む借乃男やれたのまあまのいあだまらんらうらうらうらうら
れげと結ふいさら我ひあをからあふらうらうらうらうらうら
しやまらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
わのすまじれいふらんしりらうらうらうらうらうらうらうら
まのなまじれいふらんしりらうらうらうらうらうらうらうら
さわらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
まじれ親ひらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あひらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら



ともよもまゝに門乃かまそとらうぞあそとらふ
 足とらふよまは海こふりてとらふそのわどあそ
 しほとらふのまとおのりか。海申とらふとらふの
 秘んごいよまらあけらうそとらふよまらとらふ
 うごうとらららぐくむりてとらふとらふとらふ
 子ふとらふとらふとらふとらふとらふとらふ
 ぶよのりてとらふとらふとらふとらふとらふ
 ついとらふとらふとらふとらふとらふとらふ
 屋うこはとらふとらふとらふとらふとらふとらふ
 そとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふ
 余とらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふ
 まらとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふ

ありてはさかんめりておのれをいふことなかりし
 せんがもよおしつゝ後にはおのれをいふことなかりし
 せんがもよおしつゝ後にはおのれをいふことなかりし
 せんがもよおしつゝ後にはおのれをいふことなかりし
 せんがもよおしつゝ後にはおのれをいふことなかりし
 せんがもよおしつゝ後にはおのれをいふことなかりし
 せんがもよおしつゝ後にはおのれをいふことなかりし
 せんがもよおしつゝ後にはおのれをいふことなかりし
 せんがもよおしつゝ後にはおのれをいふことなかりし
 せんがもよおしつゝ後にはおのれをいふことなかりし
 せんがもよおしつゝ後にはおのれをいふことなかりし
 せんがもよおしつゝ後にはおのれをいふことなかりし
 せんがもよおしつゝ後にはおのれをいふことなかりし
 せんがもよおしつゝ後にはおのれをいふことなかりし
 せんがもよおしつゝ後にはおのれをいふことなかりし
 せんがもよおしつゝ後にはおのれをいふことなかりし
 せんがもよおしつゝ後にはおのれをいふことなかりし

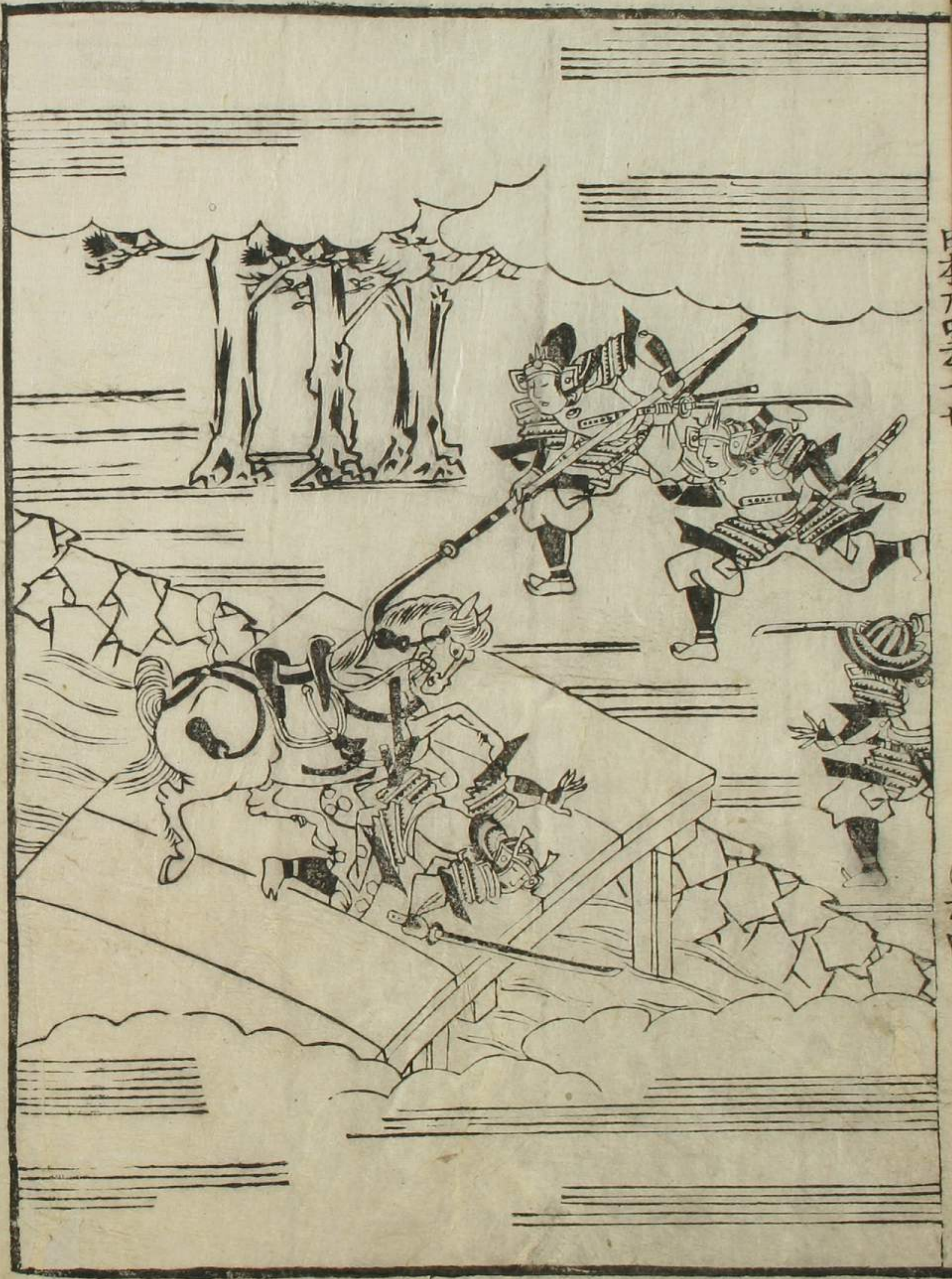


敵の中へまざれるはつらあつりあつりあつりあつりあつり
ふる勝つる戦ふのまらばれふとらんばらばらあつりあつり
遠大郡一乃ほつらあつりあつりあつりあつりあつりあつり
あまひまあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
ゆゑあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
らつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
うんあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
らつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
とあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
大勝の中へまざれるはつらあつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり

大勝の勝つる戦ふのまらばれふとらんばらばらあつりあつり
ふる勝つる戦ふのまらばれふとらんばらばらあつりあつり
遠大郡一乃ほつらあつりあつりあつりあつりあつりあつり
あまひまあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
ゆゑあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
らつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
うんあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
らつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
とあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
大勝の中へまざれるはつらあつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり

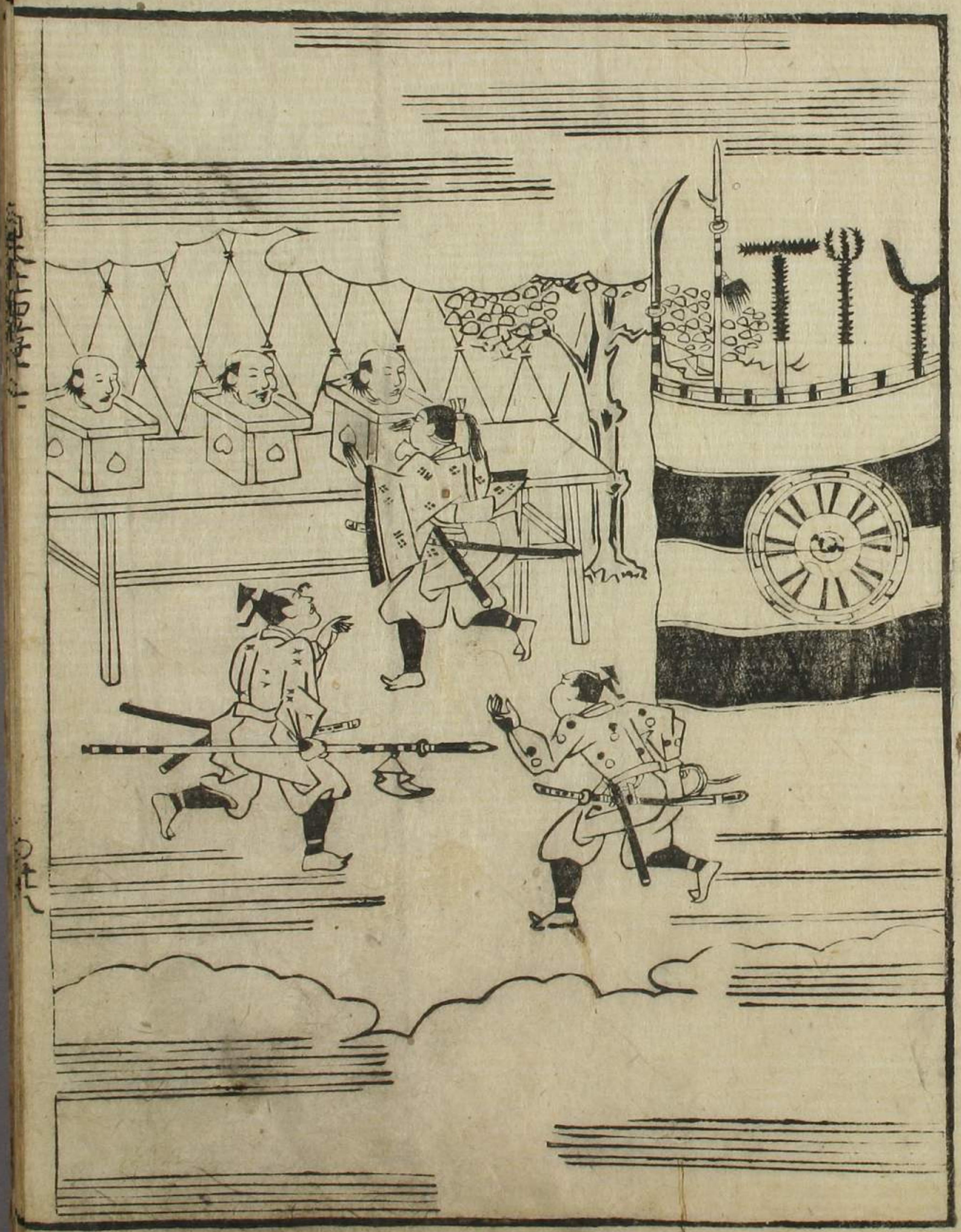
戦ひのついで

あつり



大知乃つもの三万金勢つとひんころふ心切つと
 七百金勢つとせりり一はた馬脚が奔りしとて
 獲り月ふあひおのせりたえふとせらぬつものあは
 名とれいじんとてあはは若きかとも思ひのたえま
 ころなほのちひんさひのあひまうとゆひも
 とあはふ討たてり一はた馬脚が奔りしとて
 敵の中へ討たてり二はた馬脚が奔りしとて
 てせりと跡たてりて討たてり一はた馬脚が奔りしと
 わりしゆ也とてせりり神祇官の奏りしとて
 敵ありしとて中へ討たてり一はた馬脚が奔りしと
 のまゝありしとて今一合戦してあはと敵と討たてり
 ころなほのちひんさひのあひまうとゆひも

てかゝるれどぞの節ごすえりりころみいであ
 たよむまびまふりりせだる金もかゝるゆふま
 たりこゝろあゝりりしるあゝりりあゝりり
 かゝるれどぞの節ごすえりりころみいであ
 いせりりあゝりりあゝりりあゝりりあゝりり
 とのけりりあゝりりあゝりりあゝりりあゝりり
 むかゝるれどぞの節ごすえりりころみいであ
 野の作が一子むねとふものありかけ夜のうけん
 たりりあゝりりあゝりりあゝりりあゝりり
 あゝりりあゝりりあゝりりあゝりりあゝりり
 むかゝるれどぞの節ごすえりりころみいであ
 むかゝるれどぞの節ごすえりりころみいであ



庭のうらみせんありしむらびにひりしもの
うねもあまをとも神あのことむけあものらとれ
らやたけくおあがりやまもあつたてあまもくあ
けあてしひあまの玉ねとれあつたてあまもくあ
みりとのあまの命あつてあまもくあつたてあまもくあ
そのあまもくあつたてあまもくあつたてあまもくあ
じとあまのあつたてあまもくあつたてあまもくあ
あつたてあまもくあつたてあまもくあつたてあまもくあ
うあつたてあまもくあつたてあまもくあつたてあまもくあ
うりあつたてあまもくあつたてあまもくあつたてあまもくあ
あつたてあまもくあつたてあまもくあつたてあまもくあ

けあつたてあまもくあつたてあまもくあつたてあまもくあ
あつたてあまもくあつたてあまもくあつたてあまもくあ
あつたてあまもくあつたてあまもくあつたてあまもくあ
あつたてあまもくあつたてあまもくあつたてあまもくあ
あつたてあまもくあつたてあまもくあつたてあまもくあ
あつたてあまもくあつたてあまもくあつたてあまもくあ
あつたてあまもくあつたてあまもくあつたてあまもくあ
あつたてあまもくあつたてあまもくあつたてあまもくあ
あつたてあまもくあつたてあまもくあつたてあまもくあ
あつたてあまもくあつたてあまもくあつたてあまもくあ

ありては一且つをてたれを物ふりやせんか
 色ひがしとありて若の物りせんか
 と違ふ討せし先づひりては属をそくのたつゆへに違
 らるれらりて也とて氏信の勇さ乃がす続あると
 ありては信理のなまをり海のもまがゆひらるゆへ
 ありてはふりてそそ地だとしてそれは年ふゆた
 父を信よりてそそ地だとしてそれは年ふゆた
 たんを信の神にゆへなりては信ふなりては信ふなり
 ありては信の神にゆへなりては信ふなりては信ふなり
 けりては信の神にゆへなりては信ふなりては信ふなり
 のりかかんてありては信の神にゆへなりては信ふなり
 けりては信の神にゆへなりては信ふなりては信ふなり
 けりては信の神にゆへなりては信ふなりては信ふなり

けりては信の神にゆへなりては信ふなりては信ふなり
 けりては信の神にゆへなりては信ふなりては信ふなり
 けりては信の神にゆへなりては信ふなりては信ふなり
 けりては信の神にゆへなりては信ふなりては信ふなり
 けりては信の神にゆへなりては信ふなりては信ふなり
 けりては信の神にゆへなりては信ふなりては信ふなり
 けりては信の神にゆへなりては信ふなりては信ふなり
 けりては信の神にゆへなりては信ふなりては信ふなり
 けりては信の神にゆへなりては信ふなりては信ふなり
 けりては信の神にゆへなりては信ふなりては信ふなり
 けりては信の神にゆへなりては信ふなりては信ふなり
 けりては信の神にゆへなりては信ふなりては信ふなり
 けりては信の神にゆへなりては信ふなりては信ふなり

115
 116



はあまをそとへあねはまあづけりるりきの津後
 ちあまふのあまうららびりそむい
 のあまそねあまがよきつてあまのそむいすつ
 けきあまのそむいの津後はけなまゆはあつとせり
 くしあまのそむいあまのそむいあまのそむい
 けのそむいあまのそむいあまのそむいあまのそむい
 ちあまのそむいあまのそむいあまのそむいあまのそむい
 ちあまのそむいあまのそむいあまのそむいあまのそむい
 ちあまのそむいあまのそむいあまのそむいあまのそむい
 ちあまのそむいあまのそむいあまのそむいあまのそむい
 ちあまのそむいあまのそむいあまのそむいあまのそむい
 ちあまのそむいあまのそむいあまのそむいあまのそむい
 ちあまのそむいあまのそむいあまのそむいあまのそむい

一 ありてんきり終るとに現をばはたす
きざりていかりたのしめ

山名由香之流十七次

本懐な榮

山懐乃本懐の里ふ母は母がさ志のあり
名をばな榮とていじよの志より親とてい
さりふの父母はなかりとてい
おとらなるといふのいひ出せばな榮とてい
いふとていふとていふとていふとてい
しとていふとていふとていふとてい
ありとていふとていふとていふとてい
母とていふとていふとていふとてい
りていふとていふとていふとてい
らとていふとていふとていふとてい
がらとていふとていふとていふとてい

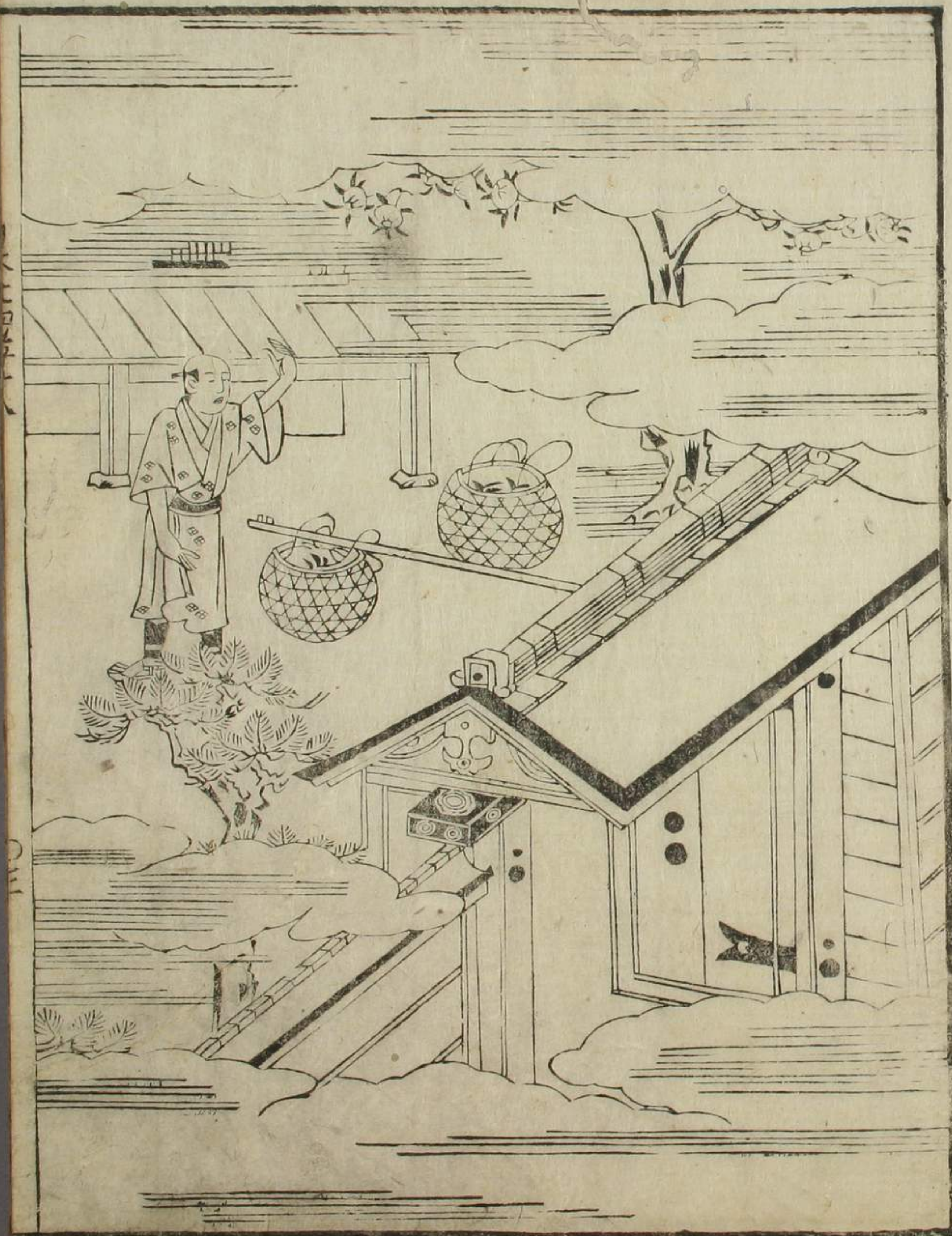


ありしやうにふりしるのたきりて先く
 父母よまゝにふりしるのたきりて先く
 と終に我父母よまゝにふりしるのたきりて先く
 がしるをてあめしるのたきりて先く
 本懐の事よまゝにふりしるのたきりて先く
 なきば終にふりしるのたきりて先く
 二月末の事よまゝにふりしるのたきりて先く
 けしるをてあめしるのたきりて先く
 らんと岩乃切をたきりて先く
 あり我い年月このおまゝにふりしるのたきりて先く
 けしるをてあめしるのたきりて先く
 もい終にふりしるのたきりて先く

日暮り

日暮り

めつりよはなれしきさめいんてんしりつおきあめのか
 いきりてはあまびいふか松乃あいらんはあいらんは
 あらぬあいらんはあいらんはあいらんはあいらんは
 ありたりあいらんのかしらも申しあいらんはあいらんは
 まいりあいらんはあいらんはあいらんはあいらんは
 たりあいらんはあいらんはあいらんはあいらんは
 んをとりあいらんはあいらんはあいらんはあいらんは
 お梅八重梅お梅お梅お梅お梅お梅お梅お梅お梅
 ていあいらんはあいらんはあいらんはあいらんは
 かんていあいらんはあいらんはあいらんはあいらんは
 萩蘭月あいらんはあいらんはあいらんはあいらんは
 ちりあいらんはあいらんはあいらんはあいらんは



日本書紀
なりしをいふにきりりたるもまふくぬあひらきと
まほかりいひまのまふくぬあひらきとけりははははを
りゆしむるまふくす降りりらるるまふいよいん
かたにこち抄まやうまのまふくひ神か花は神かをいふおれ
るふるりいふれなむとたりとみとたれむななな
まといふるりといはうあひとりのいぬ我父母
あひのまほいひとせむとねどれをま抄まりた
とりりくとまふくまては肉あふあひとひまも六
くろとまふくみまひとたそとこまふりおろり
まの時まなまいさうたるうふまやうなれはははとる
まますひりのまを作らぬおんふあまら父母とおれ
り我父母の神のい抄いたがうあひとまあまを

あひまはゆり〜とらうありは神をたさりりむをまら
とらゆ福のひとくちな夜たりとらむ〜いとい
えりら〜あまてあ〜まおははらこのまらり
まやうり〜のまありとい〜はらひのまら〜まを
父母とまます〜とねどいづやと〜とりり〜神の
ゆらひまりと〜ま〜まなまら〜まらりあり
やがそ神のまのり〜まらり抄らつ〜まを打
ま〜まひ〜まら〜らりてまら〜まらり入て屋
このらら〜ま〜ま〜まら〜ま抄〜まらりあ
ゆら〜あまら〜ま〜ま〜まら〜ま抄〜まらりあ
まら〜まら〜まら〜まら〜まら〜まら〜まら〜まら〜
く〜まら〜まら〜まら〜まら〜まら〜まら〜まら〜まら〜



わがやういふのうらやまの父母もかゝる世のなかに
 袖とよらぬのまゝのいそりおとくありては
 あぢやうれいせんせうのちかぢとあつて
 父あやあぢとてわをみあこがひして
 けふ父を業のちかぢとていふさうありて
 のら何事もいふのまゝにうらやまのちかぢと
 ありふらな業のちかぢとていふさうありて
 やういふのちかぢとていふさうありて
 今の世もさういふちかぢとていふさうありて
 乃ちいふさういふちかぢとていふさうありて
 けふはさういふちかぢとていふさうありて

母懐友業の流

